愛知淑徳大学
ビジネス学部 講師　潘卉

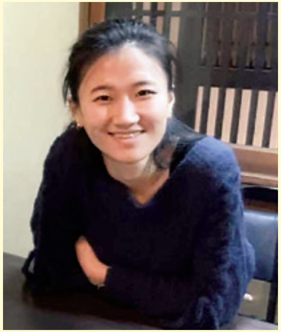
随想

ど真剣に生きよう

　8月24日、京セラの創業者で、日本を代表する経営者、「経営の神様」と呼ばれる稲盛和夫氏は逝去された。ただ一代で京セラとＫＤＤＩを世界フォーチュン・グローバル５００にランクインするまで成長させ、経営破綻に陥ったＪＡＬも見事に再建し、稲盛氏は数多くの経営奇跡を起こした。経営者や企業家だけではなく、世界中の多くの人たちに多大な影響を与えている。

　90年間の人生を歩んできた稲盛氏は、その生涯で、１９７０年代の石油危機、１９８０年代の円高不況、１９９０年代のアジア通貨危機、21世紀初頭のＩＴバブル危機、２００８年のリーマン・ショックなど、多くの不況や危機に遭遇してきた。しかし、稲盛氏が率いた京セラグループは、危機や不況のたびに、驚くほど大きな成長を遂げてきた。

　一度の成功は偶然かもしれないが、稲盛氏が起こした数々のビジネス奇跡は、偶然でも運でもない。その成功の背後に、一見地味だが本当に大切なのは、稲盛氏の人生哲学である「１日１日をど真剣に生きる」ということかもしれない。



　稲盛氏は、キャリアの初期では、特に輝かしい学歴も経歴もなく、誇れるほど著名な地位もない、私たちのようなごく普通な人だった。彼の成功は、平凡に生まれた私たちにとって、とても刺激的で、大きな勇気を与えてくれている。たとえ能力は人並みであっても、日々真剣に過ごし、自分の持てる能力を発揮して、つねに仕事に情熱を傾けていって、人間としての正しい考え方を持てば、普通の人でも並外れた業績を達成できると、稲盛氏が私たちを鼓舞するのである。稲盛氏は亡くなったが、彼の思想はこれからも世の中の多くの人たちに影響を与え続けるだろう。ここで、敬意を捧げ、心よりご冥福をお祈り申し上げたい。